

# 平沢 鉄男（ひらさわ・てつお）

## 1、プロフィール

昭和4年、口語歌をつくり歌詩「オリオン」の同人となる。童謡研究会や青森演劇研究会を結成、社会党県連の創立に参加するなど多方面にわたる活躍をした。

<生没>

1908(明治 41)年9月 24 日 ～ 1956(昭和 31)年6月 18 日

<代表作>

歌集『平沢鉄男口語歌抄』

<青森との関わり>

青森市葛町に生まれる。県内で社会主義運動を行い、社会党県連の創立に参加した。

## 2、作家解説

明治 41 年9月 24 日、青森市葛町に生まれる。小学校時代、長内健喜が担任で、その指導で童謡を作った。青森市立青森商業学校の同期生川崎文男の兄、むつをの影響で、口語歌を作り歌誌「オリオン」の同人として作品を発表しながら、鳴海要吉の「新緑」、淡谷悠藏の「黎明」とも関わり、さらに大沢久明らの実践活動に共鳴し、社会主義運動に入る。また、童謡研究会をつくり、青森演劇研究会を結成して活躍するなど本県の演劇活動に大きな足跡を残した。昭和 15 年、治安維持法による一斉検挙で、監房生活を送る。戦後は、廃墟となった青森市にいち早く消費組合を再建し、食糧難緩和に奔走。社会党県連の創立に参加するなど、めまぐるしい活動をつづけた。7回忌の昭和 38 年、川崎むつを編『平沢鉄男口語歌抄』を刊行。

代表作

便所へ、洗面所へ、ちっとは監房の同志とも話せて朝はいい

さきだって咲いた菜花はうれしいが風にゆれてるその音寒く

### 3、資料紹介

○歌集『平沢鉄男口語歌抄』

図書

1963(昭和 38)年6月

177mm×116mm

第一歌集。昭和4年から昭和 30 年までの平沢鉄男の波乱に富んだ人生の歌が収められている。